
突然の別れ

大橋 秀人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

突然の別れ

【Nコード】

N2510K

【作者名】

大橋 秀人

【あらすじ】

【連載小説】他愛のないもの、当たり前のような関係。その大切さは失うことでわかることが多い。そして多くの場合、それを一度失うと、後から取り戻すことは困難を極める。

20010911

十年前。

2001年9月11日。

僕は二十歳で、吉祥寺の商店街の端にある銀行の前で歌っていた。

出入口の前の階段に座って、アコースティックギターを抱えて、作
りたての歌を。

表を見ながら作ったそれは完璧なコード進行で、でも、どこにも個性のないつまらない歌だった。

大学の先輩が訪ねてきて、隣に座ってしばらく物思いに耽っていた。

目を閉じ、彼女は少しくらい表情をする。

僕は歌う。

道行く人々は、僕たちの前を足早に通り過ぎていく。

飲んだくれたサラリーマン。迷子のギャル。得体のしれない外国人。そわそわしたカップル。

聞こえないふりをして、僕の目の前を通りすぎる。

「優しい歌声ね」

やがて先輩は目をあげ、眩しそうに僕を見上げた。

僕はギターのヘッドを気にしながら、曲を書き溜めたノートをパラパラと捲る。

「聴いた人の心をズタズタにして、一生キズアトが残るような歌が歌いたいんですけどね」

自分の言葉に苦笑しながらチューニングをやり直す。

べじもすべじ音がずねてこまじ。

ぼくはその日、ギターに起こった出来事を苦々しく思い出していた。

「あなたにそれはムリね」

「人の心の中をめちやくちやにするのなんて、案外、簡単なんです
から」

立ち上がって僕を見下ろす先輩に向かって反論すると、彼女は悲しそうに微笑み、また来るね、と言って立ち去ってしまった。

「あなたはきつと、一人の人を愛することで精一杯なんだわ」

先輩は去り際にそう言って、耳打ちするように軽く僕の頬にキスした。

ぼくはその日、歌の途中で何度も演奏を止め、狂い出した弦の調律をしつづけた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2510k/>

突然の別れ

2010年10月10日21時13分発行